

常勤の医師21名が24時間体制で急患を受け入れています。月3回の当直時は適度な緊張感がありますね。



赤澤 ええ。当院では夜間も必ず常勤の指定医が当直でいますから、昼夜を問わず精神科救急の受け入れができます。ほかの一般的な精神科病院でも精神科救急の受け入れはある程度行っておられますが、たとえば当直の医師が指定医でない場合、夜間の救急受け入れを断らざるを得ないことも生じます。

長期入院を減らし、短期で退院できる流れを作る

Q 精神科救急には、いろいろ大変さもあると思いますか……。

赤澤 当院が精神科救急の24時間受け入れを謳っている以上、当直の日もいつ急患が入るかわからないので

ずっと緊張感がありますね。それが苦勞といえば苦勞でしょうか。

Q 当直はどれくらいの頻度で回ってくるのですか？

赤澤 月3回くらいです。精神保健指定医の資格を持った医師だけで当直を回しています。

Q 救急で運ばれてくる患者さんは、どれくらいいるものなのでしょうか？

寺谷 一般的な救急の場合、次から次へと急患が運ばれてくるといったイメージがあると思いますがその点、精神科救急は少し特殊で、急患はそれほど多くはありません。1回の夜勤で、外来（入院せずに帰れるケース）が多くて2件、入院が1件……平均するとその程度ですね。ただ、精神科の場合、1人の急患にかかる時間が長くなります。それは精神保健福祉法の手続きに関する処理に時間がかかったり、患者さんの生活や病状などに関する情報を細かく聞き取らないといけないかったりするからです。

赤澤 急患としてやって来られる患者さん以外に、電話相談を受けることも、当直医の仕事です。電話は、患者さんのご家族からの場合と、患者さんご本人からの場合があります。「家族が暴れて困っている」とか「自分はいまこういう症状が出ているんだけど、どう対応したらいいか？」とか、いろいろです。

Q とところで、みなさんは精神科救急の世界に自ら志願して入られたのですか？

寺谷 私の場合、「精神科で働きたい」という希望は元々あったのですが、看護師になったのは20年以上前なので、当時はまだ「精神科救急」自体がなかったんです。宇治おうばく病院で働くなかで、精神科救急に合ったという流れです。その出会いは幸運だったと感じています。

精神科スーパー救急！



病棟専従医師が入院患者16人に1人以上、精神保健指定医が常勤で5人以上、看護師を入院患者10人に常時1人以上配属、病棟専従の精神保健福祉士を2人以上配属、個室が病床数の半数以上を占めることなど、高規格の施設基準を満たした救急病棟。当院は全国でも数少ない「精神科スーパー救急病棟」です。

赤澤 私が当院に入職したのはまだ精神科救急病棟ができる前ですが、当時から「宇治おうばく病院は精神科救急の受け入れを積極的にやっている」という評判は聞いていて、精神科救急の仕事がやりたくてここに来ました。

南條 私が入職したのは、精神科救急病棟ができる前のことです。当時は、精神保健福祉士の世界で「長期入院患者の退院促進を重視して、その分、救急受け入れを積極的にやっていこう」という流れが生まれていた時期で、宇治おうばく病院もその流れに沿った病院運営をしていたので、そこに魅力を感じて入職しました。

Q 経緯は違っても、みなさん精神科救急の世界にやりがいを感じておられるわけですね。どういう点にやりがいがあるのでしょうか？

寺谷 昔は、「精神科といえば長期入院があたりまえ」でした。だいたい年単位、長いと10年、20年……。私が看護師として出会った例でいうと、いちばん長い方はなんと40年も入院されていました。しかし、今では